

SUPERBIKE
EXtra, EXpert and EXtreme
EXPRESS

JSB1000 秋吉耕佑の連勝を止めるのは!?
ST600 井筒仁康ダブルウインなるか!?



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE REPORT

今回で3回目となるAUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE。昨年までは、全日本一の激戦区であるST600クラスのみだったが、今年は、最高峰のJSB1000クラスも開催。JSB1000クラスは、前戦の鈴鹿ラウンドに続き、スーパーフォーミュラとの競演となる。

5月中旬に行われた事前テストでは、今シーズン4年振りに全日本に復帰したヨシムラGSX-Rを駆る津田拓也が、非公式ながらコースレコードをブレイクしトップタイム。2番手に秋吉耕佑が僅差で続き、この2台の仕上がりが抜きん出ている。レースウィークに入っても、その好調ぶりを保持していた津田が、金曜日のフリー走行でもトップタイムをマークし、初優勝の期待が高まっていたのだが…。

土曜日の公式予選は、ウェットコンディションとなりノックアウト方式で行われた。40分間で争われたQ1は、最後のアタックで中須賀がトップにつけ、秋吉、加賀山就臣、柳川明、山口辰也、高橋巧、出口修、藤田拓哉、今野由寛と続き、トップ10チャレンジへの最後の切符となる10番手には、KTM RC8を駆る大樂竜也がつける健闘を見せた。逆に11番手には、好調だった津田となり、残念ながらトップ10チャレンジへの進出を逃している。TEAM GREENの渡辺一樹、スポット参戦の安田毅史、アズラン・シャー・カマルザマンもQ1でノックアウトされてしまった。

続いて行われたトップ10チャレンジは、セッション後半に雨足が強くなったため序盤のタイムアタックでポジションが決まった。真っ先にコースインした加賀山、その後ろに藤田、そして柳川がつけ、3台がタ

イムアタックに入ると、うまく間合いをとった柳川がポールポジションを獲得した。「Q1でトップの中須賀選手が2分02秒台に入っていたのに03秒台だったので“不甲斐ないなあ”と思ったのでQ2に向けてタイヤチョイスで悩んでいました。コースインした際、ちょうど加賀山選手と藤田選手がいたので、うまく目標にさせてもらいました。大事なのは決勝で、この位置にいることなので、雨でも晴れでも、おもしろいレースがしたいですね」と柳川。オートポリスは、カワサキのホームコースであり、何度もトップ争いを繰り返しながら、あと一步勝利に届かないレースをしてきただけに、今回こそ、ここで“勝利”の2文字を手に入れたらいいだろう。2番手につけた加賀山は、昨年9月のオートポリスラウンドで負ったケガが、まだ癒えず、金曜日は左ヒザが腫れ上がってしまっていたが、ウェットでは身体が温存できたという。4番手の高橋は、トップ10トライアルで転倒を喫するもののケガはなかった。しかし課題の残る予選となったようだ。そしてポイントリーダーの秋吉は、7番手に沈んでしまった。「開幕戦とは違う方向のセットを進めていたのですが結果的に失敗でした。明日は、乞うご期待という感じです」と3連勝に向け虎視眈々。

カワサキファンの期待を一身に浴びる柳川が悲願を達成するか!?! 加賀山、中須賀が意地を見せるか!?! 秋吉、そして津田が息を吹き返すか!?! トップでチェッカーフラッグを受けるのは誰だ!?

ポールポジション柳川明(中)、2番手加賀山就臣(右)、3番手中須賀克行



柳川明はホームコースでの勝利を狙う



ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
RACE1 REPORT

ウェットコンディションとなったRACE1は、当初の予定より2周減算され14周で争われた。ホールショットを奪ったのは、予選3番手グリッドからスタートした井筒仁康。これに2番手グリッドの大崎誠之、ポールポジションのチャランボン・ボラマイと続いていく。オープニングラップは、井筒が制すが、ホームストレートで大崎が前に出ていくとレースをリード。レース序盤は、大崎、井筒、チャランボンが三つ巴のトップ争いを繰り返す。その後方に単独で小林龍太がつけ、渡辺一馬、高橋颯、横江竜司、宮嶋佳毅の4台が5番手を争っていた。

トップ争いは、井筒とチャランボンが何度か順位を入れかえるが、5周目の複合コーナーでチャランボンが痛恨の転倒。そのままリタイアに終わってしまう。井筒は大崎の背後に迫ると6周目の第1ヘアピンで大崎のインに入りトップに浮上。そのままペースを上げ独走態勢を築いていく。その後方では、小林の背後に横江と宮嶋が迫り、表彰台の最後の一角を争うバトルが繰り返される。追い上げてきた横江と宮嶋は、10周目に小林を相次いでパス。ここで勢いに勝っていたのが宮嶋だった。ラスト3周の100Rで横江をかわすと一気にペースを上げ13周目には、ファステストラップをマーク。3位でゴールし、うれしい全日本初表彰台を獲得した。

トップ独走の井筒は、そのままチェッカーを受け9年振りの優勝を飾った。大崎は、単独2位でゴールし、ランキングトップに浮上した。

予選ポールのチャランボン・ボラマイ、レース1はトップ争い中に転倒



ST600
RACE1 Official Result
(14laps)

Pos.	No.	Rider	Team
1	77	井筒仁康	RS-ITOH&ASIA
2	12	大崎誠之	伊藤レーシングGMDスズカ
3	83	宮嶋佳毅	TOHO RACING CLUB
4	11	横江竜司	RT 森のくまざん佐藤塾
5	8	小林龍太	PROGRESS&AQUALAVIE
6	45	高橋颯	RS-ITOH&ASIA
7	36	西山尚吾	RSGレーシング
8	6	渡辺一馬	KoharaRacing
9	17	西嶋修	SPA直入インストwithファイバー
10	81	原田武人	グリーンクラブ能塚

※上位10位までを掲載しています。
Entry: 39 Finish: 35 Weather: 雨 Track: ウェット
Fastest Lap #83 宮嶋佳毅 / TOHO RACING CLUB
2'02.122 (13 / 14) 137.784 km/h
WET宣言 (決勝周回数2周減算の14周レースとした)

レース1 / 優勝:井筒仁康(中)、2位:大崎誠之(左)、3位:宮嶋佳毅



#77井筒仁康と#12大崎誠之のバトル



ライブ・インタビュー・レースダイジェスト・車載動画…ますます充実するインターネット動画!!

USTREAM YouTube MFJ Live CHANNEL 詳しくはファンサイトで <http://superbike.jp/>



BS12ch TwellIV(トゥエルビ)は全国無料放送!!

「MFJ全日本ロードレース選手権第3戦AUTOPOLIS SUPER2&4RACE」をダイジェストで放映!
■放映日時 6月10日(月) 20:00~20:54